

1. 習近平政治の検証

- ・習近平体制（2012年～）：第19回中国共産党大会（2017年10月）→第2期スタート
- ・習近平：党総書記＋国家主席＋中央軍事委員会主席（党・国家）＝党＞国家（憲法）
- ・憲法改正：国家主席3選禁止規定廃止→習近平独走態勢へ、政治的引き締め強化
- ・共産党権力の中核：党組織、軍、公安、宣伝（組織とイデオロギー）
- ・権力の正統性の喪失＝経済成長鈍化 →マルクス主義 →ナショナリズム？
- ・不透明な経済状況：ニューエコノミーの拡大、オールドエコノミーの停滞
- ・激しい権力闘争＝反腐敗闘争＝江沢民・既得権益派一掃？ だがまだ確立途上
- ・範冰冰（女優）、孟宏偉（ICPO 総裁）：郭文貴事件 →王岐山（国家副主席）告発との関連？
- ・ジャック・マー（馬雲）（アリババ）会長辞任の謎：江沢民派政商ネットワーク？
- ・人民解放軍から中央軍事委員会（15部局設置）へ→江沢民・胡錦濤時代の軍長老・幹部排除
- ・陸・海・空に加えロケット軍（核・ミサイル）、戦略支援部隊（サイバー・宇宙）＝内部不透明
- ・海警（＝海保）総隊 →人民武装警察部隊 →中央軍事委員会傘下へ（軍＝党への権力集中）

2. 習近平外交の検証

- ・「新型大国関係」→「新型国際関係」：国際秩序の現状変更あるが、将来ビジョンなし
- ・一帯一路：周辺諸国の反発（新植民地主義？）、象徴としてのマハティールの反発
- ・米中の相互不信：南シナ海、サイバー、孔子学院、「中国製造2025」→「関与」政策の挫折
- ・トランプ政権の対中貿易戦争：関税引き上げ →「プラザ合意」？→国内外経済への衝撃度？
- ・ペンス副大統領の演説の衝撃：「米中冷戦」への最後通牒？「関与」政策は終わったのか？
- ・中朝関係の過去・現在・未来：相互不信と相互利用
- ・問題の本質：非核化（CVID）、体制保証（在韓米軍、経済支援等）、終戦宣言→平和協定

- ・中国の思惑：在韓米軍縮小・撤退+THAAD 廃止+中国型発展モデルの導入
- ・日中平和友好条約40周年：総理訪中から習主席来日へ？
- ・中国の対日接近：習近平政権の権力確立との相関（江沢民派退潮=2014年頃=周永康失脚）

安倍自民党総裁再選=政権の長期化決定

米中関係の悪化+日米同盟強化+周辺諸国の対中不信との相関

- ・東シナ海共同資源開発合意（2008年）+東シナ海・海空連絡メカニズム
- ・東シナ海における中国の存在感の拡大（質量両面）→西太平洋へ→台湾問題→米中摩擦
- ・日本の立場：「対話」と「抑止」→ 外交・防衛・経済の一体化の必要

3. まとめ

- ・習近平体制は依然として確立途上=果てなき権力政治
- ・権力の正統性としての経済：鄧小平時代の終焉=価値の喪失=習近平新時代とは？
- ・再び重要性を増しつつある日米中関係